

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

丹沢 鍋割山ーブナの原生林の散歩ー



戸川林道から見上げる鍋割山稜

6月上旬の梅雨の合間、丹沢・鍋割山(1272m)に登った。丹沢・塔ノ岳の南西に頭をもたげる鍋割山は、地味な山だが、草原の山頂、ブナの原生林の鍋割山稜の佇まいを愛するファンも多い。何より山頂小屋・鍋割山荘の食事が女性客の評判を呼んでいるとか。

今回は、鍋割尾根を登り大倉尾根を降る日帰り登山ということにして、朝8時半、大倉のバス停を出発した。集落を出て、雑木林のクネクネした道を進むと間もなく、四十八瀬川沿いの西山林道にぶつかる。杉林の中、道幅も広く砂利舗装の西山林道は、四十八瀬の流れを左下に見ながら緩やかな登り。

9時45分勘七ノ沢渡渉点。あちこちの木陰で先客が休憩しており、小生も腰を下ろして水をガブ飲み。日差しの中の行軍はこたえる。次いで本沢を越えてミズヒ沢を遡る。堰堤を二つ程越し、10時15分ミズヒ沢を右岸に渡り涸沢をハシゴで登ると、道は沢を離れ急な山腹のジグザグ登りとなる。たっぷり汗をかいながら登りつめた鞍部が後沢乗越、10時45分。

ここからは鍋割尾根の一本調子の登りとなる。30分程登ると樹林が途切れ、気持ち良い草尾根と



鍋割山荘

なり、一ノ萱、二ノ萱と小ピークを過ぎ、丁度12時、鍋割山山頂に到着した。草原状の山頂は三ノ萱とも呼ばれ、古くから地元の人の萱葺き屋根のための萱刈場だったとのこと。

広々とした山頂の眺望は素晴らしく、蛭ヶ岳から檜洞丸に続く荒々しい丹沢主稜の山々が目の前、富士、箱根連山も一望のもとだった。鍋割山荘前の野外卓に陣

取っての昼食は、豪勢に980円の鍋焼うどんを張り込んだ。

帰路は12時半出発で東に連なる鍋割山稜を辿る。ブナの原生林の中の気持ち



鍋割山稜のブナ林

良い散歩。小丸、大丸と緩やかに登り降りを楽しみながら進む。時折、緑の中にトウゴクミツバツツジの艶やかな赤



ブナの巨木

紫色がハッと目を奪う。13時半、金冷シノ頭で大倉尾根に合流し、そのまま大倉尾根を下った。いつものことながら、バカ尾根と呼ばれるこの尾根の下りは、疲れた身にはやたら長い。くたびれ果てての大倉のバス停到着はようよう16時となった。